

改訂版の序

2011年に消化器BooKシリーズとして発刊された『炎症性腸疾患を日常診療で診る』のコンセプトは“実際に診療にたずさわる医師に向けたIBD診療実践書”であり、執筆者の方々の多大なるご尽力と熱意により大変ご好評をいただきました。今日、IBD診療の実践書が数多く出版されていますが、その先駆けになったものと思っており、あらためて執筆者の先生方、羊土社の方々に感謝する次第です。

しかし、IBDの診療の進歩は目覚ましいものがあり、初版発刊後にインフリキシマブが潰瘍性大腸炎に適応承認され、さらに完全ヒト型抗TNF- α 抗体製剤であるアダリムマブがクロhn病と潰瘍性大腸炎に承認されました。また、インフリキシマブの使用経験が蓄積するにつれ二次無効への対応など新たな課題も明らかになってきています。疾患活動性のモニタリングの重要性が唱えられ新しいバイオマーカーも出現するなど、IBD診療は“新しい治療選択肢誕生の時代”から“より質の高い診療の時代”に移ったのではないかと感じています。

そこで目覚ましい進歩を続けるIBD診療に対応するために改訂版を発刊する運びとなりました。これまでのコンセプトを維持したまま、さらにバージョンアップしたものとなっていると確信しています。本書が初版と同じように医師の方々の日常診療に役立っていただければ幸いです。

最後になりましたがご多忙の中ご執筆いただいた先生方、羊土社の関係者の方々に深く御礼申し上げます。

2017年1月

編者を代表して
久松理一